

合奏団 “京浜東北線の世界” 演奏会

WKT

指揮 原田太郎

2001年12月16日(日) 19:00 開演

栄区民文化センター リリス ホール

Program

バルトーク作曲	ルーマニア民族舞曲 (ウィルナー編)
グリーグ作曲	ホルベルク組曲(ホルベアの時代から) 作品 40
	<休憩 15分>
ベートーヴェン作曲	弦楽四重奏曲第4番 八短調 作品 18 - 4
レスピーギ作曲	リュートのための古風な舞曲とアリア 第3組曲

*ベートーヴェン 弦楽四重奏第4番

1st violin 大隈 美樹 2nd violin 高田 英亮 viola 大久保 智子 violincello 岩本 弦

Greetings

本日はお忙しい中、私たち合奏団 京浜東北線の世界 演奏会にご来場頂き誠にありがとうございます。本日のプログラムはルーマニア、ノルウェー、イタリアを代表する作曲家による、古い音楽が鮮やかに全く新しいものに生まれ変わった近代の作品に、ベートーヴェンの弦楽四重奏曲を加えた、色彩豊かなプログラムとなっています。それぞれの独自の魅力を楽しんでいただけたら幸いです。また今回この演奏会を実現することができたのも井上登志夫・幹子さん、一柳満久さんをはじめたくさんの方々のおかげです。本当にどうもありがとうございました。

Program Note

ベラ・バルトーク作曲 ルーマニア民族舞曲 弦楽合奏版 ウィルナー編曲

ルーマニア各地の民謡を素材にした6曲で構成されており、素朴ながら味わい深く、しゃれた逸品。一曲目は「杖を用いた踊り」、二曲目はとぼけた感じの農民舞踏「飾り帯をつけた踊り」、三曲目は脱穀の労働歌が元の「足踏み踊り」、四曲目は「角笛の踊り」ヴァイオリン・ソロにはじまる叙情的なメロディが聴きどころです。五曲目は複合リズムの「ルーマニア風ポルカ」、続く六曲目、足を小刻みに踏む踊りの「急速な踊り」は、弦楽器の開放弦がたくさん用いられており、民族的な雰囲気では賑やかなうちに終わります。本日はバルトークの小管弦楽曲をもとにした、アルトゥール・ウィルナーの弦楽合奏用の編曲版を演奏致します。あっという間に終わってしまう小品にして決してやさしい曲ではありませんが、この曲をぜひ演奏してみたい！というメンバーも多く、本日は果敢に挑戦します。

エドヴァルド・グリーグ作曲 ホルベルク組曲（ホルベアの時代から）作品 40

I. Praludium: Allegro vivace

II. Sarabande: Andante

III. Gavotte: Allegretto

IV. Andante religioso

V. Rigaudon

グリーグの生まれた国ノルウェーの文学者、ルドヴィ・ホルベア男爵（1684 - 1754）の生誕200年を記念して作曲されたピアノ曲を弦楽合奏用に編曲した曲です。この曲のサブ・タイトルは「古い様式による組曲」。1曲目はバロック時代にならって前奏曲、2曲目はフランスのルイ王朝時代のクーブランとラモーの様式、3曲目もフランス王朝風、4曲目はバッハのアリア、5曲目は南フランスの舞曲の様式を用いています。しかし最初の前奏曲からいってもバロック・スタイルとは思えないもので、北欧のたくましく美しい音楽が颯爽と駆け抜けていきます。様々な表情があらわれて、演奏している側も楽しくなったり、切なくなったり、うかれたり、つい顔に表れてしまいます。魅力がぎっしりつまっている、こころの中にそっとしまっておきたい宝箱のような作品かもしれません。

L. v. ベートーヴェン作曲 弦楽四重奏曲第4番 八短調 作品 18 - 4

弦楽四重奏を聴けば、その作曲家の凝縮されたエッセンスをみることができる、と言われるように、弦楽四重奏というジャンルは知れば知るほど奥深く、年を重ねた経験豊かな音楽家こ

そ弦楽四重奏の魅力に没入していくこともよくあります。ベートーヴェンは 17 曲の弦楽四重奏曲を書いています。今日演奏する第 4 番（1799 年）はベートーヴェンの疾風怒濤時代の若々しい魅力に溢れた作品で、同時期に交響曲第 1 番を作曲しています。この弦楽四重奏曲第 4 番は、八短調というベートーヴェンにとって特別な調性で書かれています。例えばほかに八短調の作品には、ピアノソナタ第 8 番「悲愴」、「コリオラン」序曲、第五交響曲などがあり、これらの作品には一貫して劇的で悲劇的な美しさがあります。

オットリーノ・レスピーギ作曲 リュートのための古風な舞曲とアリア 第 3 組曲

- I. イタリアーナ Italiana
- II. 宮廷のアリア Arie di corte
- III. シチリアーナ Siciliana
- IV. パッサカリア Passacalia

レスピーギ（1879 - 1936）はイタリアの作曲家です。ヴィオラ奏者になったり、リムスキー・コルサコフやブルッフに師事したり、ピアニストになったり、かわいい奥さんを持ったり、ローマのサンタ・チェチェリア音楽院の教授、院長になったりとなかなか素敵な人生を歩んでいます。この音楽院には古い音楽の資料が豊富にあり、レスピーギはこの図書館で過ごすのを楽しみにしていたそうで、特に気に入ったものは編曲もしています。本日演奏する「リュートのための古風な舞曲とアリア 第 3 組曲」（1931 年）もそのうちのひとつで、15・16 世紀の弦楽器であるリュートの音楽家の作品を新古典主義風に編曲したものです。第二楽章は 1603 年のリュート音楽集に基づき、感傷的な「お前を愛するのは悲しいことだ」という曲に始まり、6 つの愛をうたった音楽が繰り広げられていきます。明るく軽やかな愛、ゆったりとした愛、深刻な愛、おしゃべりな愛、いろいろな愛が表れます。レスピーギの華麗な管弦楽法で塗りかえられたこれらの旋律はきらきら輝いて光彩を放っています。（佐藤美晴）

Members みんなの声をもとに作りました。

conductor

原田太郎 乙丸雅美、田部井剛、松本日之春の各氏のもとで、ただいま勉強中。年齢不詳な落ち着きっぷり。つい敬語を使ってしまう。本当は何歳なんですか？という声があがっています。味のある声の持ち主。

1st violin

新井梨紗子 表情くるくる。子供っぽいようで大人っぽい。Vn の腕抜群。隠れファン多し。ワグネルの練習にはお菓子持参。バイオリンを弾いていれば背が伸びるといまだに信じています！

朝野雅子 一日 27 時間分くらい過ごしてるでしょ!? エネルギッシュな雅子。
弾いているといつも倍のパワーがでます。洋子ちゃんと混ぜると危険。毒が発生します。

喜多洋子 恐かわいい。ワグネルのご意見番。まるで笑い苺を食べたかのように笑っています。

佐藤美晴 たまにパニックに陥ります。困ったときは鼻を撫でて解決します。

和田恵里 オーラで世界を平和にします。本当はしっかり者だと自分では思っているみたいです。

高田英亮 椅子の上にあぐらをかいて Vn を引く姿は仙人のよう。かっこいい! いうときやいう。
堅実な夢見るプリンス。星も好き。バイオリンのプリンス、ひですけリン。

大隈美樹 抜けてて鋭い美しい人。何事も一刀両断 (スパッ!!)。その漂う気品に憧れます。

2nd violin

井上明子 疲れやすそうでパワフルなんですね。隠れ熱い人。しっかり者。笑うととてもかわいい!

玉田美穂 名パティシエ。半永久的に食べれるもの: りんご 黒糖かりんと。みんなの目覚まし。

西方路大輔 すっとぼけ。「ふ~じこちゃ~ん」また見せてね! 前傾姿勢のまま顔を上げ、片手を
拝むようにして上げれば、これであなたも西方路。バイオリンよりも三度の飯が好き。

大島功士 ジャニーズ系バイオリン弾き。薔薇の音色 (みんなクラッときます)。優しくて素敵!

井上登志夫 井上 (娘) と鼻の形が同じ。普段はエンジニアです。今日は、よろしくお願いします!

viola

大久保智子 ベんしゃんまいらぶ 饒舌な (ただし赤ちゃん言葉) 名演奏家。頑張り屋。宇宙人。

小川有紗 白が似合うかわいい子。智子に雰囲気似ている気がします。指揮者のいる曲初挑戦

榎本憲泰 目がきらきら。名前 (憲泰) はノリヤスでなくカズヒロです。「見返美人」ばい?

新井 真理子 ウン 10 年振りの合奏で久々に楽しさと緊張感を味わっています。Violin を viola に持ち
替えてまだ 3 週間で、娘 (Vn) に随分しごされました。ピオラの柔らかな音色にはまっています。

violincello

岩本弦 カリスマチェリスト。永遠の少年。その名の通り、弦の申し子。

綿引聡史 ハードボイルドチェリスト。全身黒。コーヒーの CM で黒い鞆を追いかけてます。

岩本南美 「みなみ」と読みます。みなみと言えばタッチですが、白球ならぬ黒い音符を追いかけ
週末は地元オケで青春中。

contrabass

飯島悠介 まじめそうに見えますがツボをおさえたギャグと鋭いつっこみをいれることができる
芸人肌。弦さんのよき相方。もっと壊れてください。三田へたまには行きなさい!

...合奏団“京浜東北線の世界”(World of KEIHIN TOHOKU line...WKT)とは...

慶応義塾ワグネル・ソサイエティ・オーケストラの弦楽器メンバーを中心とした合奏団です。

一風変わった団体名に深い意味はございませんのでご了承下さい。

どうぞごゆっくりお楽しみ下さい。

館内でのご飲食はご遠慮下さい。